

クラシックカーを
愛する人へ

2011年12月号(12月28日発行) 創刊号(1971年10月号)以来24年連続
発行部数100万部突破達成記念号

Nostalgic Hero

Impressive Classic Car Magazine
ノスタジックヒーロー

12 2011 December

特別付録
ノスヒロ特製
ステッカー

Vol. 148

TOP ARTICLE ● ● ● BEAUTIFUL SEDAN BODY

美しきセダンボディ

スカイライン 2000 GT-A / クラウン DX / コルトギャラン 1500 All GS / ルーチェ 1500 DX / コンバーノ・ベルリーナ 1000 スーパー-DX



最強のレース組織
日産ワークス20年の歩み[隆盛期]
アメリカ発! ニッポン旧車の楽しみ方

HOT CLASSIC
ハコスカ HT 2000 GT
+ L20ET型エンジン

野依 豊
日本レース史の断章
ヨコハマタイヤとともに
20年間闘った男 和田孝夫 PART 1



旧車が集った、
楽しんだ

秋のイベント報告!

ターボDE!
ドッカベン!
TURBO DE DONKARI Part 3
アルトワークスRS/R / ミニカダンガンZZ
EVENT ハチロックフェスタ / AE86フェスティバル

特別定価 ● 840yen ● 次号は12月28日発売予定です

オートレジェンド2011

COOL'S

Rocky Auto

チャットパーティ



ロッキーオート
快適なハコスカ、ケンメリ、S30Zを販売するロッキーオートは、エンジン載せ替えクルマをメインに展示。スポーツツインジェクション仕様のRBをはじめ、SR20搭載のSRL311、フルカーボン仕様のS30Zなど、見所満載。今回は、なんとトヨタの1UZ (V8)を搭載したハコスカが初お披露目となった。



スターロード

新車のようにフルレストアされたイエローとブルーのS30Zとハコスカを出展したスターロード。ベース車から完璧に仕上げられていて、日常のアシとして使うこともできるほど快調。エンジンルームのキレイさは、注目の的だった。



クラシカ横濱

ハコスカをメインとしたフルレストア車やオリジナルパーツを販売するクラシカ横濱。パーツを下取りし、オーバーホールして販売する「パーツレドシステム」を開始するなど、GT-R乗りには心強いショップだ。今回は、5周年記念のパーツ特別販売とレストア済みのGT-Rを展示した。



ワーク

当時のデザインで復刻したモデルが人気のワーク。エクイップ01と03の標準仕様をはじめ、ブラックアルミ仕様などを展示。新たにマイスター-CR01もラインナップに追加。



オートショップ タキース

国産旧車からアメリカンマッスルカーまで、宝石のようなクルマを出展したタキース。ローリングストーンズのキース・リチャーズが所有していたディーノ246GTには感動!



プリンスクラフト

67年式スカイラインS54Bは、エンジンOH、オルペン、外装パーツ再メッキなど、ほぼ完璧な仕上がり。往年の名ドライバー・砂子義一さんも来場し、相変わらずの元気っぷり。車載工具入れが新品としてラインナップされた。



ビットハウス

あえてL20型エンジンにこだわってチューンし、9000rpmまで回るように仕上がったハコスカをメインに、ビットハウスがカスタムしたクルマを5台展示。快適なL20改も面白い!



オートショップ タキース

国産旧車からアメリカンマッスルカーまで、宝石のようなクルマを出展したタキース。ローリングストーンズのキース・リチャーズが所有していたディーノ246GTには感動!



プリンスクラフト

67年式スカイラインS54Bは、エンジンOH、オルペン、外装パーツ再メッキなど、ほぼ完璧な仕上がり。往年の名ドライバー・砂子義一さんも来場し、相変わらずの元気っぷり。車載工具入れが新品としてラインナップされた。



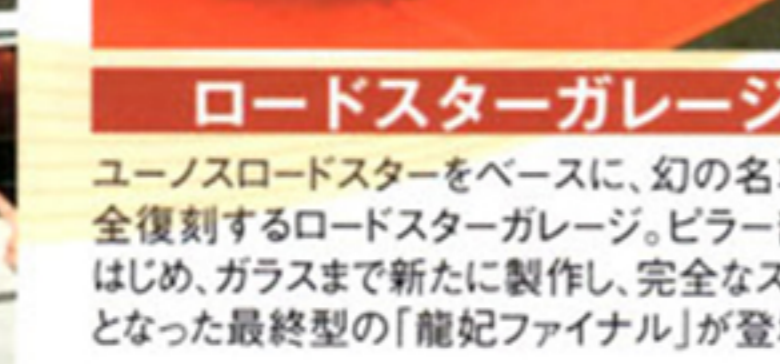
レイス

レーシーな70系カローラにTE37Vを装着してきたレイス。14インチから16インチまでのラインナップに、新たに17インチが追加。80年代のクルマにもマッチする!



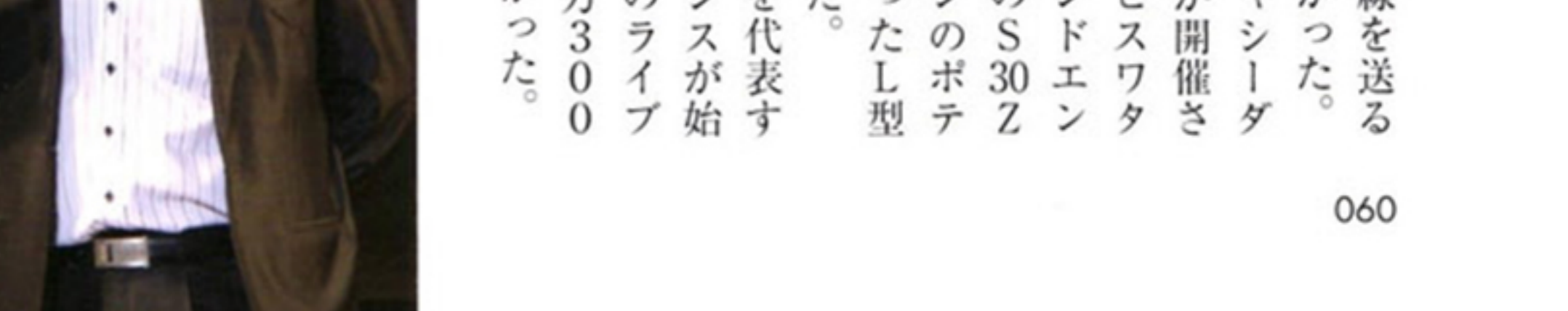
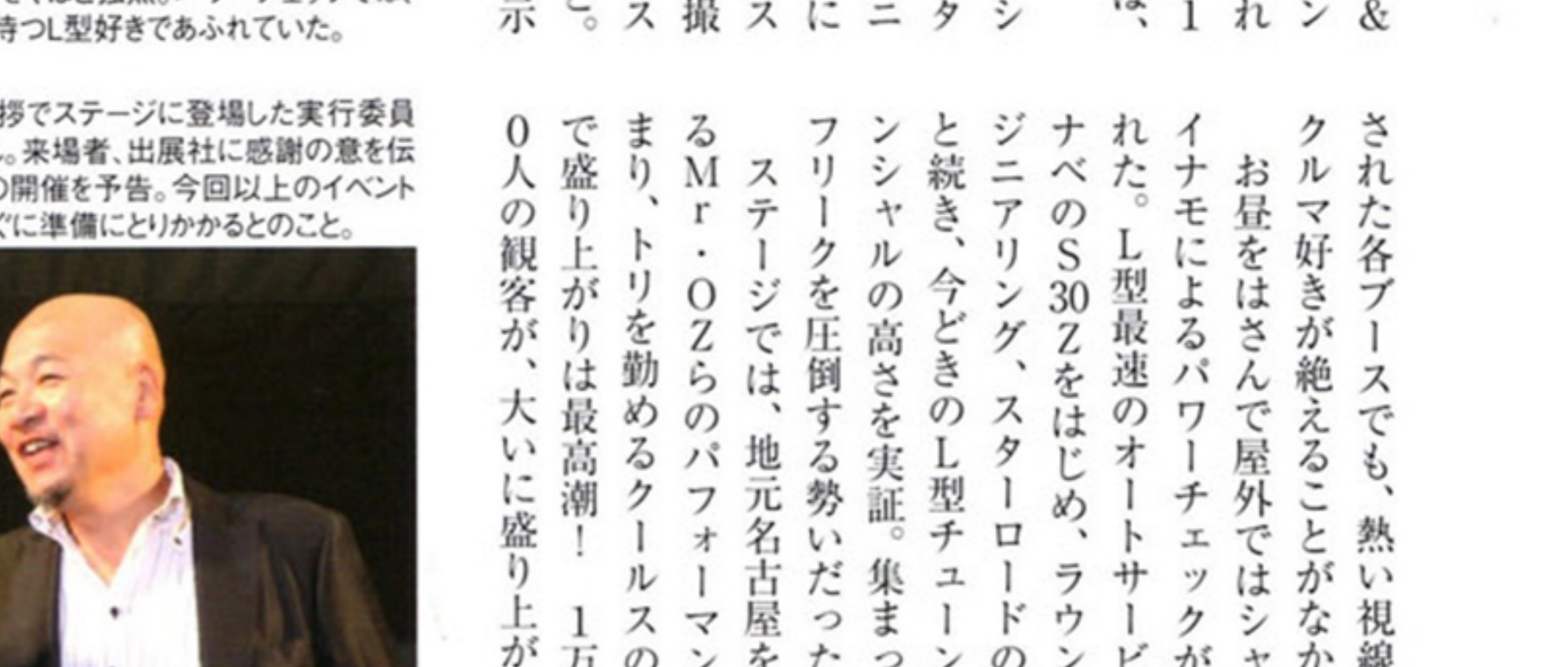
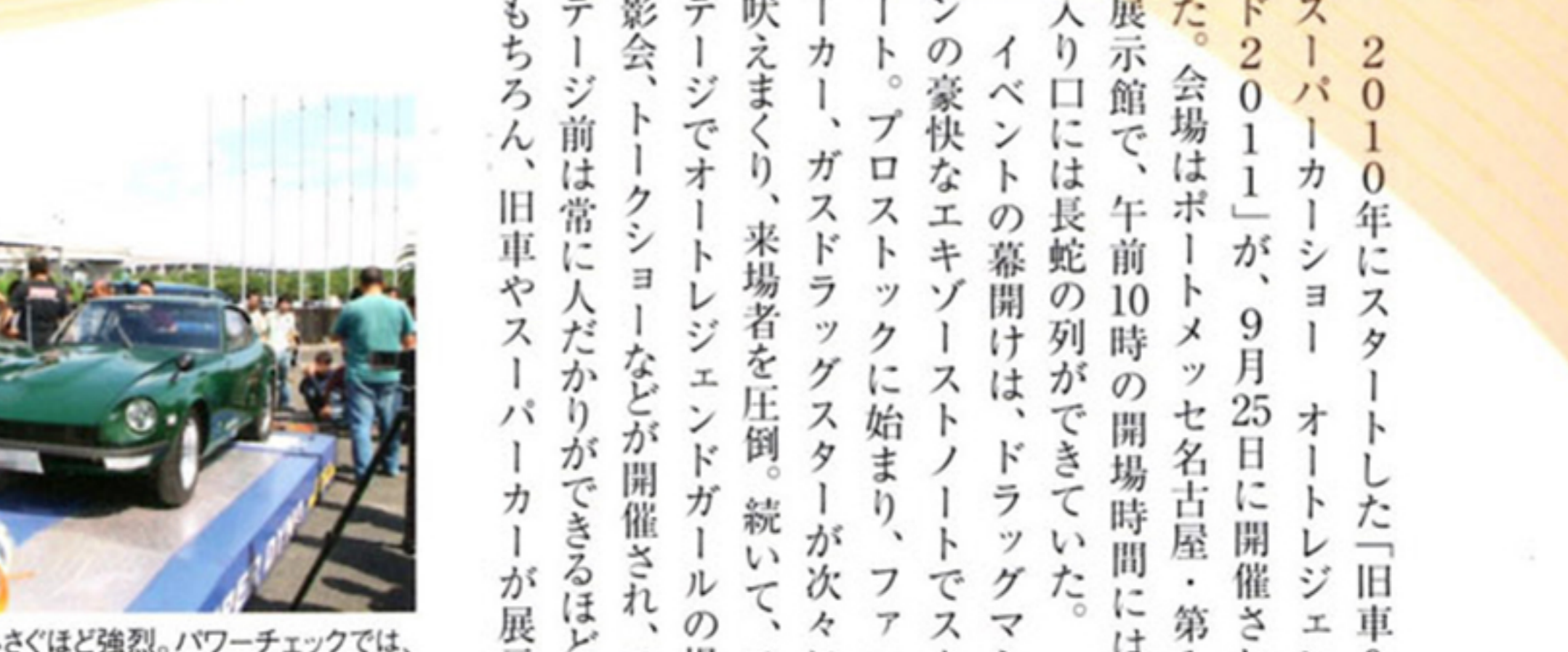
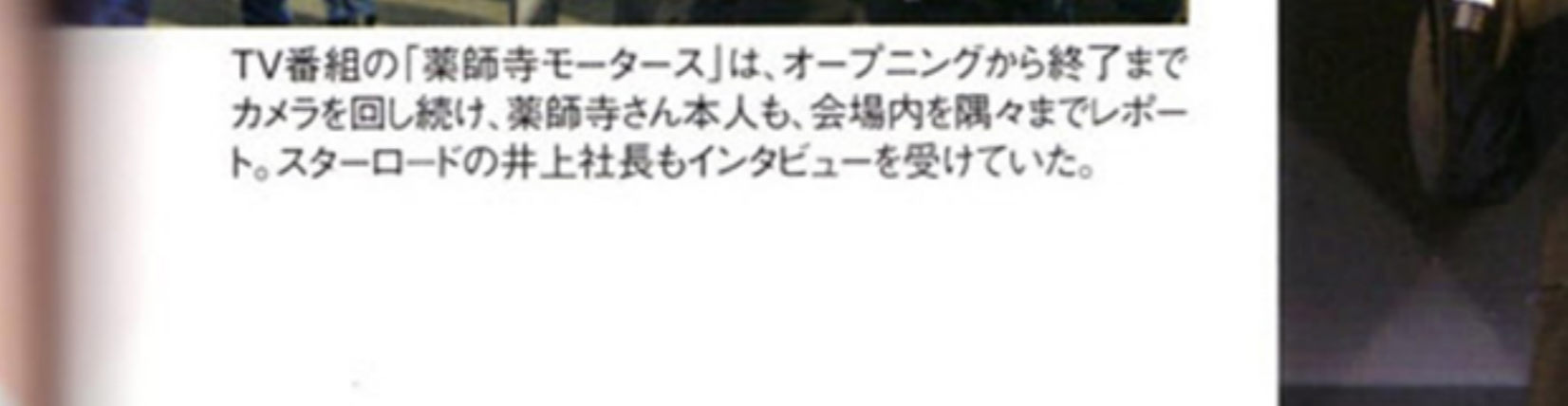
プロテック

ハコスカやS30Zの整備やチューニング、オリジナル部品の販売を行うプロテック。S20型エンジンのオリジナルパーツをはじめ、ワークスタイプのオイルキャッチタンクなども製作。APレーシングキャリパーの14インチホイールも開発中だ。



ロードスターガレージ

ユーノスロードスターをベースに、幻の名車を完全復刻するロードスターガレージ。ピラー部分をはじめ、ガラスまで新たに製作し、完全なスタイルとなった最終型の「龍妃ファイナル」が登場。



旧車とスーパーカーが全国から集結 クルスのライブで興奮は最高潮!

● 2011年9月25日 / 愛知県名古屋市・ポートメッセ名古屋

TEXT & PHOTO: NOSTALGIC HERO / 編集部

2010年にスタートした「旧車&スーパーカーショー オートレジェンド2011」が、9月25日に開催された。会場はポートメッセ名古屋・第1展示館で、午前10時の開場時間には、入り口には長蛇の列ができていた。イベントの幕開けは、ドラッグマシン、プロストックに始まり、フアンニカー、ガストラックスタターが次々に吠えまくる。来場者を圧倒。続いて、ステージでオートレジェンドガールの撮り会、トークショーなどが開催され、ステージ前は常に人だかりがでるほど。もちろん、旧車やスーパーカーが展示

された各ブースでも、熱い視線を送るクルマ好きが絶えることがなかった。お昼をはさんで屋外ではシャシィダ イナモによるパワーチェックが開催された。L型最速のオートサービスタナベのS30Zをはじめ、ラウンドエンジンニアリング、スターロードのS30Zと続き、今どきのL型チューンのポテンシャルの高さを実証。集まったL型フリークを圧倒する勢いだった。

ステージでは、地元名古屋を代表するMr・OZらのパフォーマンスが始まり、トリを勤めるクルスのライブで盛り上がりは最高潮! 1万3000人の観客が、大いに盛り上がった。



会場内は、旧車、スーパーカー、業師寺モーターズといったエリアに分けられていた。どのブースでもクルマ好きが気になるクルマやパーツなどを、真剣な表情でチェックしていたのが印象的だった。

ファンカーやガストラックスタターの大迫力の排気音は、集まった観客が思わず耳をふさぐほど強烈。パワーチェックでは、最速のL型チューンドに注目が集まり、シャシィダイナモの回りは息を飲みながら結果を待つL型好きであふれていた。

TV番組の「業師寺モーターズ」は、オープニングから終了までカメラを回し続け、業師寺さん本人も、会場内を隅々までレポート。スターロードの井上社長もインタビューを受けていた。